

板書例

黒字は、実際の授業展開場面における児童の発言の一部です。

スイミー

レオニレオニ さく
たにかわしゅんたろう やく

めあて
スイミーやまわりのようすを思いうかべな
がら音読しよう。

すすめかた 音読↓話し合い↓音読↓ふりかえり

岩 かわい 食べられる
みつけた きょうだい
スイミーのと
大きな色
そつくりの
元気がなくなってほしい
「出たいよ。みんなであそぼう。
おもしろいものがいっぱいだよ。」
自分が元気になった

挿絵 海の中のようす

スイミーは考えた。 なやんで
ことわれないように
食べられないように
いろいろ考えた。 まよって
いっしょにあそべるように
うんと考えた。 いっしょけんめい
追い出せるように

ふりかえり

元気な声で

「活用」の力を育てる評価の工夫

振り返り

第2次では、日々の「学習の振り返り」場面で「今日の学習で1番心に残ったこと」をノート3行程度にまとめる学習を続けていく。

この学習が第3次のお気に入りの本を選んだり、その本の好きなところを自分で見つけたりする活動につながるようにする。

ホワイトボードの活用

児童が考えた「音読の工夫」をホワイトボードに書いて表示している。

児童から出された工夫の仕方が抽象的な表現で分かりにくいときには、他の言葉に置き換えて考えたり、実際に音読で表現し合ったりして児童個々のイメージが相互に伝えられるように工夫する。

音読

低学年の音読では、「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること」を主な目標とする。評価に当たっても、姿勢や口形、発音、声の大きさや速さ等に注目して、児童の言語活動をとらえるようにする。

また、自分の理解や感想を反映させるために、「工夫して読みたい部分」を自分で見つけ、自分なりに工夫しようとしているかをとらえるようにする。

児童によっては、聞いている者に工夫点が伝わりにくい場合もある。どのようなことに気を付けて読んだのかを聞く機会を持ち、意欲の伸びや発想の広がりも評価していくようにする。

HOME

単元の流れへ

本時の流れへ

評価問題